

3号庭園

枯山水庭園

出土した石組を使用し、築庭当時とほぼ同じ状態に復元されています。
大内義隆との交流が確認されている京の大徳寺大仙院の枯山水庭園（現存）に似ているとも。館の南東に位置する池泉庭園が「公的」空間であるのに対して、枯山水庭園の一角は「私的」空間であったとする説もあります。

西門

発掘調査では柱を据えた穴などを確認。
館の西側外郭はさらに現在の縦小路に近い位置にあったと考えられ、敷地内の区画を分ける内門だったと考えられています。

石組水路

16世紀前半のものとする石組水路を修復したものです。水路として機能していた当時は、西門を内門として、館はさらに西側に広がっていたと推定されています。

大路ロビー

大殿エリアのまち歩きの出発点。大内氏館跡周辺めぐりはここからどうぞ。

大内氏館跡周辺MAP

土塁

大内館に土塁、空堀が整備されたのは14世紀後半以降。土塁の高さは1m程度でその上には塀（築地塀もしくは板塀）がめぐらされていました。

1500年代前半に造営された枯山水庭園と推定。
※発掘調査後に埋め戻されています。

石組かまど・せ人列建物

池泉庭園と同時期の施設です。台所のような場であったと考えられています。さらにその西側には、館の蔵と推定される建物跡が見つかっています。

当時は極めて希少。海外交易による大内氏の繁栄を象徴。
ソテツ

2号庭園

池泉庭園

15世紀終わり頃の作庭で、当時の形状をそのまま残す形で発掘されました。平安時代の浄土庭園のような古風な景観を示しています。池の南東側には庭の観賞用とも考えられる建物跡も。

元は興隆寺（大内氏の氏寺）の釈迦堂で、明治時代に移築され、現在は室町時代の姿に復原。

龍福寺本堂

左右主柱の間隔は約4.5mあり、西国有数の規模。
※発掘調査後に埋め戻されています。

1号庭園

1400年代終わり頃に廃絶と推定。枯山水など形状も不明。
※発掘調査後に埋め戻されています。

龍福寺山門

龍福寺参道

八坂神社

南門

※発掘調査後に埋め戻されています。

大殿地域交流センター

臨時P



縦小路

大殿大路

石組かまど

石組かまど